

荒川の自然環境は、流域の貴重な財産です

力を合わせて、未来へつなぎましょう

荒川の広大な河川敷には、多くの自然環境が残されています。砂や小石の礫(れぎ)河原では子育てをするコアジサシや、昔の荒川の流が残る湿地では貴重な動植物などが生息しています。

荒川流域では都市化が進んでおり、これらの自然環境は都市生活に潤いを与える貴重な財産でもあります。その保全活動は、国や自治体、地域住民やボランティアの協働によって支えられています。荒川の自然を未来へつなぐ活動に、参加してみませんか。



湿性植物が残る湿地(三ツ又沼ビオトープ)。
写真は湿性植物のノウルシ



荒川の自然環境は、
官民連携で
保全されて
いるのじゃ！



人間川流域の環境保全活動を支援します 「武州・入間川プロジェクト」

武州ガス(株)、荒川上流河川事務所、公益財団法人埼玉県生態系保護協会が主体となり、入間川流域で環境保全活動を行っている市民団体などを支援するための助成事業を実施しています。武州ガス(株)の創始者である原次郎氏は、入間川、越辺川、小畔川の国直轄での「三川分流工事」の実現など治水に尽力されました。その入間川流域を次世代へ伝えていくために、市民団体などの環境保全活動に助成金を交付することにより、河川を軸とした地域社会の活性化、さらに河川環境管理の質的向上を目指しています。

現在、助成団体の募集を行っております。詳細は、荒川上流河川事務所のホームページをご覧ください。

[武州・入間川プロジェクト](#) で [検索](#)



コウノトリをシンボルに 水辺環境の保全と地域活性化

荒川流域の水辺環境を再生・保全し、同時ににぎわいのある魅力的な地域づくりを実現しようと「荒川流域エコネット地域づくり推進協議会」を設立し、行動計画を検討しています。関東地域全体で、コウノトリやトキの生息する豊かな水辺環境を目指していることから、荒川流域でもこの2鳥に着目して、学識経験者や市民団体、関係自治体や行政機関が連携・協力してエコジカルネットワーク形成に向けて取り組みを進めます。



コウノトリ(国の特別天然記念物)が舞う水辺環境を目指しています。
撮影:静岡県丸子川



荒川上流河川事務所



漫画家 魔夜峰央先生

大ヒット映画「翔んで埼玉」の原作者、
魔夜峰央先生とのコラボが実現しました。
魔夜先生描き下ろしのキャラクターが
荒川の今を紹介します。



荒川の自然再生に参加しませんか! 流域の自然をつなぐ荒川太郎右衛門地区

太郎右衛門橋の下流右岸に「荒川太郎右衛門自然再生地」があります。河川改修で本流から切り離された旧流路の三つの池には、貴重な湿地環境が残っています。荒川ビオトープや三ツ又沼ビオトープ、周辺の北本自然公園などの自然の拠点をつなぐ「エコジカルネットワーク」の「核」となる重要な地区です。

あなたも荒川の自然再生に参加しませんか。荒川太郎右衛門地区自然再生協議会は、様々な活動への参加者を募集しています。

[荒川太郎右衛門地区](#) で [検索](#)



市民参加による外来種の草抜きなどを実施しています



[荒川流域エコネット地域づくり](#) で [検索](#)

